

「ひとまろの里小野っ子」の確かな成長を目指して

～子どもの現状把握に基づいた、親学と子どもの体験活動支援を広げる～

益田市小野公民館

1 小野公民館の概要

公民館は島根県の最西端に位置し、海岸沿いで山口県萩市と接している。

所管する区域の規模は、面積20km²、人口1,860人、世帯数710世帯、高齢化率36.9%であり、公的施設として保育所・小学校・中学校・駐在所・JA・JF・診療所・薬局・銀行（各1）、郵貯銀行・JR駅（各2）がある。

区域の特色としては、交通アクセスが比較的便利で、JR、国道191バス路線で中心市街地まで15分程度、萩・石見空港も隣接していることがあげられる。

海岸線の美しさが県内でも最高といえる人形岩を始め磁石岩、屏風岩等がある急峻絶壁の海岸と東山魁夷画伯が皇居宮殿及び奈良唐招提寺の壁画のモチーフにしたとされる白砂青松の三里が浜、小浜海岸の美しい波形は、小野地区のすばらしい財産といえる。

また、古来より柿本人麿生誕の伝承地として神社と遺髪塚が所在している地域でもあり、「ひとまろの里」といわれるゆえんである。

地域の産業としては、農業と漁業が主体で市街地への勤労者が大半を占めているが、近年大規模な国営開発農地が造成され、ぶどうを中心に、施設野菜、西条柿が生産されている。

上記環境の中で、地域に必要な組織もよく整備されており、生きがい活動自主グループも16グループあり、いきいき活動が展開されている。

2 事業の概要

(1) はじめに

①実証事業名 「子育て、子育て地域支援事業」

②実証事業のテーマ

「ひとまろの里小野っ子」の確かな成長を目指して

～子どもの現状把握に基づいた、親学と子どもの体験活動支援を広げる～

③事業実証のねらい

ア 次世代を担う子どもたちに今どのような現象が生じているのか、改めて認識する。

イ 教育の役割分担が議論されている中で、家庭教育のあり方を考える親学研修や子育て学習を通して、「各々が家庭教育目標を持つ子育て」を推進、支援する。

ウ 「子どもを育てることは地域の未来をつくること、未来を担う子どもの確かな成長を目指し地域が一緒になって次世代づくりを」の思いを共有化し、地域の関係機関が連携した幅広い交流・多様な体験活動を推進し、ここで育ってよかった、これからもこんな所で住んで行きたいと皆んなで感じる地域づくりを目指す。

(2) 具体的な取組み

①子どもの現状把握から今後の家庭教育のあり方を考える（親学推進）

- ア 子どもの一般的な状態を、保護者がチェック表記入するアンケート調査を実施し、集計分析する。
- イ アンケート結果と益田市教育委員会が発行した教育白書を活用しての現状認識と課題提起をし、それぞれの家庭教育を考える基礎にする。
- ウ 重要な諸課題の解決に向けた研修会を開催し、今後の家庭教育のあり方などを推進する。

② 地域で取り組む子どもの体験活動支援（現行活動を基本に新たな活動を充足）

ア 現行活動の継続

- (ア) 学校との連携と支援（地域との共催活動、人材支援コーディネイト、住民の学校行事参加、情報授受等）・・・随時
 - ・小学校クラブ活動への人的支援及び原材料などの支援（年6回・1回当たり12名程度）
 - ・学校での児童への読み聞かせ活動（週1回・1回当たり3名）
- (イ) 交流体験活動（公民館をステージとした地域内各種団体と地域ボランティアによる子育て支援）
 - ・ひとまる子育てサロン[未就学児と親の育児相談、育児開放]
 - ・ひとまる小野ハウス[放課後子ども教室]
 - ・ひとまるの里小野っ子通学合宿
 - ・子ども料理教室[早寝早起き朝ごはんの重要性学習と食事づくりの楽しさなどを体験]
 - ・ふるさと遊び[正月遊び、海つり8月、ふるさと散歩等]
 - ・地域行事参加活動＝地区民体育大会、敬老会（手紙）、文化祭（作品展示）、ふるさと祭り（芸能発表 幼・小・中も参加）
- (ウ) 地域での見守り活動
 - ・地区防犯パトロール隊活動（自動車見守り隊90名）
 - ・地区街角声かけたい活動（腕章タスキ、登下校、休日遊び場での声かけと見守会員100名）

イ 新規地域支援活動

～現行事業が生活習慣、集団遊び、異年齢間交流を目的とした、いわゆる基本的な取り組みであったものから、子どものとき一度は体験させたい、ふるさとの自然を活用した活動を盛り込み、視野を広げると共に、感性豊かなものの見方、考え方が増幅されるような体験活動を取り込む。

(ア) はなご山登り～夏休実施

登山道がなかったため登ることが難しかった地域で最高峰の山に、近年植樹のため作業道が出来、植林された。よって、ここ2～3年に限り植林された樹木も小さいため見晴らしがよく地域が一望でき、登山道も歩きやすい。

地域のボランティアで整備し子どもを登らせ、山と生活の歴史、大切な役割、木の種類や自然観察、林業についても学び体験させる。

(イ) われら海の子

小学校4年生を対象に、海と生活の歴史、大切な役割、合わせて、漁業の変遷、海中(漁船からの)・海辺の観察など地域のボランティアと交流を図りながらの広い海、力強い海を感じる体験させる。

この取組を通して、自然の良さ・大切さ、あるいは、ものの見方・考え方などの意見交換をさせる。

3 事業の成果と課題

- (1) 子どもの現状把握から今後の家庭教育のあり方を考える(親学推進)に関しては、事業の着手が遅れたことから、アンケートの概要分析を実施したが、詳細分析から課題の提起には至らず、次年度の課題となる。しかし、当面の大きな現代的課題となっている「メディアへの対応学習」を行いながら次へのステップを提起した。
- (2) 地域で取り組む子どもの体験活動支援に関しては、現行継続事業について、少しずつステップアップしながら順調に実施してきたが、今年度計画した新規事業において海、山とも天候に左右され、結果的に当初計画したスケジュールには至らず、自然相手の日程作りに想像を超えた困難さを実感した。
- (3) 総合的に、本事業の趣旨である「子どもの成長を、地域こぞって支援していく機運の醸成」につながり得たのかについては、“そうだ! やろう”との声が高まってきたが子どもたち及び保護者の反応がいまひとつで、地域の人とのつながりを通じた体験活動の重要性が認識されていないところがあり、事業導入趣旨の説明不足の検討が課題である。

4 今後の方向性

親学の推進活動においては、次段階へのステップを着実に推進することと、体験活動については、用意周到な計画と天候相手事業への柔軟な計画を組み込んでいかなければならない。幸い、地域の協力支援の気運が高まっており、今後これを組織的に且つ継続事業とする体制づくりを視野に事業推進を図っていくべきものと位置づけている。



通学合宿



はなご山登山



はなご山登山



おやこ料理教室



ボランティアハウス